

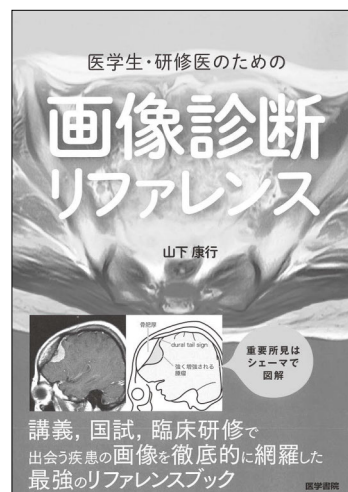
医学生・研修医のための画像診断リファレンス

山下康行【著】

評者

笹本浩平

名張市立病院総合診療科・総合診療専攻医



画像読影は医学生・研修医の皆さんにとって必須のスキルです。最近の医師国家試験では画像問題が頻出で、合格後すぐに必要となる画像検査とその解釈について問うています。実際、研修医になると画像検査が患者さんの病態理解のキーになることを経験するでしょう。しかし、画像診断はとても難しいと感じます。どこをどのように読んでいったらよいかわからなくなることがありますし、そもそも画像解剖がわからないということもあります。同じ画像を見ているのに上級医と見えているものが違うこともたくさん経験するでしょう。自分で読影できないときは doctor's doctor と呼ばれる放射線科医の読影レポートが頼りになりますが、24 時間 365 日すぐにレポートが飛んでくる環境ではない場合はどうしましょうか。自分で読影するしかないのです。

そんなときに『医学生・研修医のための画像診断リファレンス』が役立ちます。本書は各章の最初に総論として画像診断アプローチ法と鑑別診断の方法がまとめられていて、画像解剖と読影に必要な知識をコンパクトに理解できま

す。また、鑑別のポイントも記載されていて、各領域の鑑別診断の復習にもなります。画像解剖や専門用語を理解し使えるようになれば、他科へのコンサルトや診療情報提供書の記述の際により正確に相手に伝えることができるようになるでしょう。

総論に続く各論は疾患ごとに読影ポイントが数行にまとめられており、その後に豊富な画像とその画像に存在する読むべき重要所見の解説がシェーマ付きで記載されています。これがとても特徴的で、文章では伝わりにくい画像所見でもシェーマなら視覚的に理解でき、印象に残ります。その次には臨床と病態生理、画像所見がコンパクトにまとめられており、各疾患の復習にもなります。それも臨床でよく出会う疾患が多く掲載されているので、覚えた知識をすぐに臨床へ応用することができま

す。総合診療医をめざす私のような医師にとってもさまざまな臓器において知っておくべき画像所見を一冊で学べるので重宝しています。

総論で読影法と鑑別診断を頭に入れておき、各論で疾患を理解しながら、その結果としての画像を理解することができれば、実際の画像の読影もできるのではないのでしょうか。自分でも正しく読めると診断に早くたどり着き、目の前の患者さんのためになると思います。

『医学生・研修医のための画像診断リファレンス』で学習して、カルテに自分なりの読影レポートを書いてみて、放射線科医の読影レポートを模範解答として答え合わせしてみたいか。診断力が向上し、読影にも自信が出てくると思いますよ。

B5 判・頁 304

2018 年 3 月

定価：本体 4,200 円＋税

〔ISBN978-4-260-02880-6〕

医学書院刊